



全国私立大学 FD連携フォーラム

News Letter No.21

CONTENTS

P.2	ご挨拶
P.3	加盟校一覧／ 2025年度取組概要
P.4-5	2025年度前半期活動報告 (総会・シンポジウム)
P.6	2025年度後半期活動報告 (幹事校・会員校ミーティング)
P.7	入会のご案内／実践的FDプログラムのご案内



▶ 代表幹事校・地域担当幹事校【西日本担当】 関西学院大学

今後の高等教育の在り方を見据えて

関西学院大学 高等教育推進センター長 教授
小谷 正登



関西学院大学は、2008年のJPFF発足時より加盟し、幹事校を務めてまいりました。そして、2025年6月より代表幹事校を担当させていただいております。さて、JPFF の設立目的として、「全国の中規模以上の私立大学が連携してFD（ファカルティ・ディベロップメント）を推進することにより、日本の新しい『高等教育の質保証』標準を目指す」と定められています。本学のFDの歴史は長く、1992年に総合教育研究室で実施されたことが最初です。その後、2002年度に教務委員会の下にFD部会が設置され、全学一斉の授業評価を行うようになりました（2023年度より本センターの下に同部会を設置）。そして、JPFFに加盟しFD活動を推進し現在に至っています。また、本学創立150周年となる2039年を見据えて策定された「超長期ビジョン」と、それを実現するための前半10年間（2018-2027）の方向性を示す「長期戦略」からなる「Kwansei Grand Challenge 2039」の中にも、以上の流れを受け、FDを推進するための計画を示しています。なお現行の学習指導要領では、小中高等学校に

おいて「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が求められ、教育・学習内容のみならず教育・学習方法も示されています。そして、GIGAスクール構想のもとICT教育を踏まえた探究学習が実施され、新しい学習者が生まれています。一方、ここ10数年間で大学生において、学修方法、学生生活の在り方、さらに保護者との関係において主体性が低下していると言われ、若年層の姿が変化しています。加えて、急激な少子化を受け、18歳人口が減少し2023年の大学進学者数約63万人が、2040年には約51万人に減少するという試算がある中、転換期にある国際交流、研究力低下への指摘など、近年の社会を取り巻く様々な変化を見据えた高等教育の在り方が問われています。

このような状況のもと、ご負担を増やすこととなりますが、JPFF加盟校が各校におけるFD等の取り組み事例や課題の共有を通じて新たな知見をさらに交換するとともに、各校間の連携を深化させることで、現在および将来の高等教育全体に求められています課題に答えていけることを願っています。



▶ 地域担当幹事校【東日本担当】 早稲田大学

対話から始まる大学教育改革 —FD連携が生む知の循環—

早稲田大学 大学総合研究センター 教授
井上 史子



全国私立大学FD連携フォーラムの地域担当幹事校として、本ニューズレターに寄稿の機会を賜りましたことに心より御礼申し上げます。早稲田大学大学総合研究センターは、全学的な教学マネジメントの高度化と教育の質保証を支える中核組織として、FD活動を制度・組織・実践の各レベルから推進してきました。

早稲田大学は、国内外から多様な学生と教職員が集う研究教育拠点として、国際的な教育改革の潮流とも呼応しながら発展して参りました。教育のミッションとして「対話型、問題発見・解決型授業の拡充と高度化」を掲げ、学習者が文化的・専門的背景の異なる他者との対話を通じて問いを深め、社会的課題に向き合う力を育成することを重視しています。その実現に向け、学位プログラムを基軸とした教育の体系化、学修成果の把握と可視化、シラバスを起点とする授業設計の質的向上、教学IRを活用した改善サイクルの構築に取り組んできています。大学総合研究センターは、これらを大学全体

の方針と現場の教育実践を接続するFD活動として位置づけ、持続可能な教育改善の仕組みづくりを支援しています。

また、早稲田大学は創立150周年となる2032年に向け、中長期計画「Waseda Vision 150」を策定し、「世界人類に貢献する大学」としての歩みを着実に進めています。グローバル社会において大学が果たすべき役割が拡大する中、教育の質を国際的な水準で保証し、その成果を社会に示すとともに、人間力・洞察力を備えたグローバルリーダーを育成することは大学に課せられた重要な責務です。

全国私立大学FD連携フォーラムは、多様な私立大学がそれぞれの文脈と強みを持ち寄り、相互に学び合うことのできる貴重な協働の場です。早稲田大学大学総合研究センターは、国内外の知見も参照しながら各大学の実践を構造的に整理し、共有可能な知として発信することで、私立大学におけるFDの質的深化と、より実質的な教育改善に貢献していきたいと考えています。

加盟校一覧

代表幹事校	関西学院大学			
地域担当幹事校	早稲田大学【東日本担当】	関西学院大学【西日本担当】		
幹事校	関西大学	関西学院大学	芝浦工業大学	
	創価大学	中央大学	中部大学	
	同志社大学	法政大学	明治大学	
	立教大学	立命館大学	龍谷大学	
	早稲田大学			
	会員校	愛知大学	青山学院大学	学習院大学
		神奈川大学	関東学院大学	北里大学
		九州産業大学	京都産業大学	甲南大学
		神戸学院大学	國學院大學	国士舘大学
		上智大学	専修大学	中京大学
帝京大学		東京農業大学	東北学院大学	
東洋大学		南山大学	日本大学	
福岡大学		武庫川女子大学	名城大学	
明星大学				

50音順、全38大学（2026年3月現在）

2025年度 取組概要

2025年度 第1回幹事会

日時：2025年4月14日(月)～21日(月)12:00
形式：Eメールによる審議

2025年度 第2回幹事会

日時：2025年6月14日(土)12:00～13:00
場所：芝浦工業大学 豊洲キャンパス 交流棟4階 402教室

2025年度 総会・シンポジウム

日時：2025年6月14日(土)13:00～16:50
場所：芝浦工業大学 豊洲キャンパス 交流棟4階 402教室（総会）・交流棟5階 501教室（シンポジウム）
シンポジウムは大学教育イノベーション日本（HEIJ）との共催、およびオンライン併用のハイブリッド開催

◆2025年度シンポジウム

- ◆講演Ⅰ
関西大学 教育推進部副部長／教授 山田 剛史 先生
- ◆講演Ⅱ
法政大学 大学評価室長 理工学部機械工学科／教授 川上 忠重 先生

◆講演Ⅲ

芝浦工業大学 教育イノベーション推進センター長／教授 榑原 暢久 先生

◆登壇者の質疑応答

関西大学 教育推進部副部長／教授 山田 剛史 先生
法政大学 大学評価室長 理工学部機械工学科／教授 川上 忠重 先生
芝浦工業大学 教育イノベーション推進センター長／教授 榑原 暢久 先生

2025年度 代表幹事校ミーティング

日時：2025年12月12日(金)15:00～15:50
形式：オンライン

2025年度 幹事校・会員校ミーティング

日時：2026年1月28日(水)13:00～14:30
形式：オンライン

2025年度 第3回幹事会

日時：2026年3月6日(金)～16日(月)12:00
形式：Eメールによる審議

総会・シンポジウムを振り返って

芝浦工業大学

教育イノベーション推進センター長 榊原 暢久

2025年度の全国私立大学FD連携フォーラム（JPFF）総会ならびにシンポジウムが、2025年6月14日（土）に、芝浦工業大学豊洲キャンパスにて開催されました。今年度は、昨年度に引き続き幹事会及び総会を対面形式とし、シンポジウムはオンラインも交えたハイブリッド形式にて実施いたしました。また、シンポジウムについても、昨年度と同様に大学教育イノベーション日本（HEIJ）との共催としました。

総会では、代表幹事校の芝浦工業大学の代表として私が司会を担当し、2024年度の活動・決算報告を行いました。その後、2025年度から代表幹事校を引き継ぐ関西学院大学の進行により、2025年度の活動計画とその概要、年間スケジュール、予算、2026年度幹事会・総会・シンポジウムの開催日程等について報告と審議が行われました。また、2025年度及び2026年度の体制についても紹介がありました。

総会に引き続き開催されたシンポジウムでは「内部質保証の実質性」をテーマとして掲げました。ここでいう内部質保証とは、PDCAサイクルを通じて教育の企画・実施から自己点検・評価・改善までを連動させ、学習成果を可視化・説明できる状態を維持する学内プロセスですが、とすればそのプロセスが形骸化しやすい現状では、その「実質性」をいかに高めるかが各大学の喫緊の課題となっています。そのため、内部質保証とIRや学生参画との連携性、学習成果の可視化とカリキュラムの整合性整備の連携性など、多くの大学が直面すると考えられる課題への取り組みについて、関西大学、法政大学、芝浦工業大学の事例を紹介しました。

シンポジウムの冒頭に、芝浦工業大学の荻谷 義治副学長（工学部長）による会場校の挨拶の後、山田 剛史 教授（関西大学）より「内部質保証の実質化をどう理解し、実践するか 一関西大学の事例一」と題した講演をいただきました。“実質化”とは「学生の学習成果を伸ばす仕掛けが組織として回る状態」とし、認証評価に対するアリバイ作りといった基準適合ゲームから「学びの質」中心への発想転換の必要性について触れられていました。また、改善が学生の学習成果に直結し、そのエビデンスが組織で共有され、再び改善に活かされる状態と定義し、評価様式の整備だけでは不十分で、数値を“対話”に変える場づくりこそが核心であると強調しました。学習成果測定の種類を具体的に提示し、長所と限界を比較、学生調査でDP（学位授与方針）項目を把握（間接評価）、外部標準テスト（GPS-Academic など）、卒論・卒業研究のルーブリック評価、「キー科目」集中型アセスメント、シラバス連動の累積型DPモニタリングなどの弱点について、具体例で示しました。第四期機関別認証評価では学生参画が基準に入る可能性を指摘し、「測定よりも学生を巻き込んだ意味づけが先行する」と結びました。

次に、法政大学の事例「組織的な内部質保証の高度化と学生参画の方向性」について、川上 忠重 教授（法政大学）からご報告をいただきました。総長直轄の「全学質保証会議」を頂点に、点検評価企画委員会・大学評価委員会・各学部質保証委員会（教育研究組織）へ連なる四層体制を整備し、基準協会の水準を「4ステップ」に落とし込んでPDCAを迅速に回転させ、第三期機関別認証評価で得た高評価を踏まえ、弾力的措置を活用し個性伸長型の自己点検へ移行しました。IRでは指名式アンケートを毎年改訂し、学習成果指標とカリキュラムポリシーの適合を可視化しました。また、学生参画はピアネットや体育会を核に座談会を実施し、「学部→キャンパス→大学全体」の視点で課題を抽出、参画学生の負荷軽減と動機付けを両立させました。タスクフォースが学生の意見を執行部へ迅速に接続し、DP再点検とアセスメントシート整備、教職員研修・評価セミナーで成果共有を図りました。川上先生は「学生とのパートナーシップと信頼の蓄積こそ質保証の要」と強調し、欧米型の学生評価者制度導入も視野に、組織的・継続的な質向上を目指す方針を示しました。

最後に、私から学科・コースごとに設定された「ミドルレベルのディプロマ・ポリシー（mDP）」と、それに連動するカリキュラムの整合性確保の実践を紹介しました。各科目の到達目標と評価基準をシラバス上で明示し、学生の学習成果を「SITポートフォリオ」により可視化・分析する体制を整備し、教育活動のPDCAサイクルを回している点を強調しました。

また、シラバスにおける各授業の授業外学習時間の明示、主要授業科目の条件設定、卒業研究ルーブリックの整備や自己評価・授業評価アンケートの活用など、学修成果の可視化と保証に向けた多角的なアプローチを紹介しました。さらに、FD・SDやIRの体制整備、学外との連携による教職員育成、学生参画制度（SCOTなどのスチューデントジョブ制度）の推進により、全学的な質保証文化の醸成に努めていることを報告しました。

これらの3つの講演後に、質疑・応答を行いました。参加者の皆さまからは教員・職員問わず活発な質問が出され、学生



へのフィードバックの実効性、内部質保証における学生参画、管理運営方針の見直しなど、多岐にわたる実践的課題について活発な議論が行われました。学生への情報発信については、「見てもらう工夫」の重要性が強調され、ポスター掲示や生協のトレー活用など具体例が挙げられました。また、内部質保証体制への学生参画に関しては、既存のFD部会の発展的活用が提案され、その際には「学生参画の定義」や「意見の扱い」に対する慎重な設計が必要であるとされました。学習成果の可視化に関しては、人文系分野での指標化の難しさに理解を示しつつも、他学部との比較共有や段階的実践の必要性が語られました。学生の意見を授業改善にどう活かすか、そのプロセスへの信頼と仕組みづくりも鍵とされ、全体としては「小さな実践の積み重ねによる変革」の大切さが共通認識として示されました。

そしてシンポジウムの締めくくりとして、2025年度代表幹事校である関西学院大学 教育機構 高等教育推進センター長の小谷正登教授より閉会の挨拶があり、シンポジウムは盛会のうちに終えることができました。

今回のシンポジウムには、対面・オンラインのハイブリット開催により41大学から101名の方々にご参加いただきました。昨年度に引き続き、多くの方にご参加いただき、心より感謝申し上げます。

最後に、ご登壇いただきました山田先生、川上先生におかれましてはご多忙のなかにもかかわらず、ご講演をお引き受けいただきましたこと、あらためて御礼申し上げます。今回のシンポジウムを通じて、学生が主体的な学習者として成長し、私立大学における教育の質保証につながり、ひいては高等教育全体の発展に寄与することを期待しております。



シンポジウム次第

◆ 開会挨拶

苅谷 義治 氏（芝浦工業大学 副学長・工学部長／教授）

◆ 講演Ⅰ

「内部質保証の実質化をどのように理解し、実践するか？—関西大学の事例を踏まえて—」

山田 剛史 氏（関西大学 教育推進部 副部长／教授）

◆ 講演Ⅱ

「法政大学における内部質保証の改善・向上への組織的な取り組みと「学生参画」の方向性」

川上 忠重 氏（法政大学 大学評価室長 理工学部 機械工学科／教授）

◆ 講演Ⅲ

「芝浦工業大学における内部質保証～カリキュラムマネジメントに焦点をあてて～」

榎原 暢久（芝浦工業大学 教育イノベーション推進センター長／教授）

◆ 登壇者への質疑応答

◆ 閉会挨拶

小谷 正登（関西学院大学 高等教育推進センター長／教授）

◆ 司会

榎原 暢久（芝浦工業大学 教育イノベーション推進センター長／教授）

2025年度 幹事校・会員校ミーティングを開催

代表幹事校・地域担当幹事校（関西学院大学・早稲田大学）

JPFJ加盟27大学（計50名）のみなさまにご参加いただき、2025年度幹事校・会員校ミーティングを開催しました。以下にその内容を報告申し上げます。

【開催日時】2026年1月28日（水）13：00～14：30

【開催形態】オンライン（同時双方向型）

なお、昨年度実施しました本フォーラムの活動に関するアンケート結果、またそれを受けての議論の結果、本年度から「懇談会企画」は実施しません。

議題1. 2026年度総会・シンポジウム開催日程に関する件

2026年度の総会・シンポジウムを次のとおり開催いたします。

【開催日時】2026年6月13日（土）13：00～16：45（予定）

※先立って幹事会を開催予定（12:00～）

※17：00～情報交換会

【開催形態】対面開催（関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス）、一部ハイブリッド方式（シンポジウムをオンラインにて配信する）

正式な案内を2026年5月上旬までに予定します。シンポジウムのテーマは検討中ですが、現段階において「高大接続からみる大学教育」（仮）で考えております。なお、シンポジウムに講師3名の招聘を予定しておりますが、うち1名は遠隔地の非加盟校からお招きすることを検討しています。旅費や謝礼は申し合わせ事項（2021年6月19日総会議決）に基づいて処理します。

議題2. 事務局との契約更新に関する件

2025年4月から、事務局における業務を株式会社ソウブン・ドットコム様（本社：東京都荒川区）に委託しています。本ミー

ティングにおいて、2年目の契約更新について内容の説明を行い、承認されております。新たな契約期間は、2026年4月1日～2027年3月31日（1年間）です。

本フォーラムの運営には、事務局の働きが欠かせません。遅滞なく活動を進捗するため、引き続きの業務連携に工夫を凝らしていく所存です。

議題3. JPFJ・ウェブサイトコンテンツ移行（ホームページ再構築）に関する件

サイトの安全性向上、コンテンツ管理など運用の継続性担保に関する要請から、ウェブサイトのコンテンツを新たなサーバへ移行し、運用管理することが提案されました。予算を含む詳細についての決裁は、例えばメールによる持ち回り審議などを、地域担当幹事校にて検討いたします。

（その後、3/6～16にメール審議を実施）

議題4. 実践的FDプログラムの制度変更及び2026年度運用に関する件

新しい展開を見込む制度とするため、運用が変更されます。詳しくは本ニュースレターに掲載の記事『実践的FDプログラムのご案内』をご覧ください。

■2025年度幹事校・会員校ミーティング開催案内

～当日まで。

2025年12月4日：第1回目開催案内（日程通知）

12月16日：第2回目開催案内（出欠確認）

2026年1月26日：第3回目開催案内（議案及び資料配付）

1月28日：2025年度幹事校・会員校ミーティング開催日（オンライン）

2026年度 JPFJ総会・シンポジウム

関西学院大学西宮上ヶ原キャンパスでお待ちしています。

～開催概要（2026年3月現在）～

テーマ「高大接続からみる大学教育」（仮）

日 時：2026年6月13日（土）13:00～（幹事会は12:00～）

対面会場：関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス

兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155 (<https://www.kwansei.ac.jp/>)

12:00～13:00 幹事会（幹事校のみ）

13:00～14:00 総会（幹事校・会員校）

14:00～16:45 シンポジウム（オンライン併用）

17:00～18:15 情報交換会

入会のご案内



全国私立大学FD連携フォーラムは、全国の中規模以上(学生数8,000名以上)の私立大学が連携し、全国の高教育の質の向上を目指し、活動しています。本フォーラムでは、高等教育の質の向上に資するため、加盟校間での情報共有や意見交換を促進しています。

ウェブサイトでは取り組みの概要や、加盟校のFD活動についてご紹介しております。詳しくは下記ページをご覧ください。

URL: <http://www.fd-forum.org/fd-forum/>

入会を希望される場合には、ウェブサイト「入会のご案内」から「入会届」をダウンロードの上、事務局まで郵送、メール、FAXのいずれかでお送りください。

※フォーラム運営に係る費用は、会員校の年会費で賄っております。

(年会費:5万円(2025年3月現在))

※入会に関するご質問がございましたら、事務局までお問い合わせください。

実践的FDプログラムのご案内

実践的FDプログラムとは、教員が自らの授業を専門分野と教育学の観点から省察することができる知識、技能、特にアクティブ・ラーニングを実践する能力を修得する研修プログラムです。

私立大学には、クラス規模の大きさ、教員の持ちコマ数の多さ、学生の学力と学習意欲の多様性など、多くの困難な教育条件が存在します。本プログラムでは、授業実践をおこなううえで求められる基礎的な知識と技術を学ぶコンテンツと、大学教員に求められる教育に関するアカデミック・プラクティスに対して、系統的な理論や情報を提供するコンテンツで構成されます。

立命館大学が独自に設定した修了要件を満たした方には、オープンバッジ(到達目標を達成したことの証)を発行します。

その他、各大学・高等教育機関において、組織の文脈や到達点に応じて本プログラムの一部コンテンツを抽出・組み合わせ、目的や対象者に適した研修プログラムとして活用することも可能です。これにより、大学教員に求められる教育能力および職能の育成を図り、大学教育の質の保証につなげることができます。

2026年度より、本プログラムは新制度の運用を開始いたします。
詳しくは、ウェブサイトをご確認ください。

http://www.fd-forum.org/fd-forum/html/fd_application.html

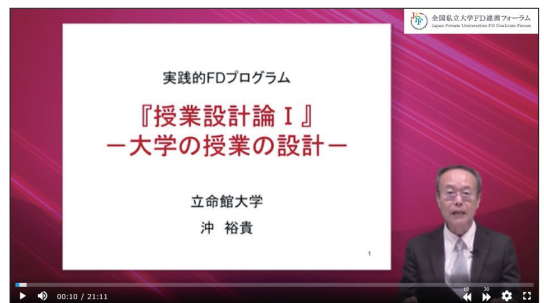
利用申込について

受講期間は単年度(4月1日～翌3月31日)となります(利用申込期間:3月1日～12月31日)。団体および個人でのお申込みが可能です。お申込みの際は、上記のウェブサイトをご確認ください。

受付

立命館大学 (事務局:教育・学修支援センター 担当部署:教学推進課)

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 TEL:075-465-8304 FAX:075-465-8198 e-mail:fd71cer@st.ritsumeai.ac.jp



全国私立大学FD連携フォーラム事務局

株式会社ソウブン・ドットコム 〒116-0011 東京都荒川区西尾久7-12-16 TEL:03-3893-0111 FAX:03-3893-6611

発行日:2026(令和8)年3月